

第163回エイズ動向委員会 委員長コメント
《令和5年 HIV感染者・AIDS患者の年間新規報告数（確定値）》

【概要】

1. 今回の報告期間は、令和5年1月1日～12月31日の1年間
2. 新規HIV感染者報告数は、669件（過去20年間で、19番目に多い報告数）
3. 新規AIDS患者報告数は、291件（過去20年間で、19番目に多い報告数）
4. HIV感染者とAIDS患者を合わせた新規報告数は960件
（過去20年間で、19番目に多い報告数）

【感染経路・年齢等の動向】

1. **新規HIV感染者：**
 - 同性間性的接触によるものが476件（全HIV感染者報告数の約71%）
 - 異性間性的接触によるものが90件（全HIV感染者報告数の約13%）
 - 静注薬物によるものは2件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、20～40歳代が多い。
2. **新規AIDS患者：**
 - 同性間性的接触によるものが157件（全AIDS患者報告数の約54%）
 - 異性間性的接触によるものが44件（全AIDS患者報告数の約15%）
 - 静注薬物によるものは0件
 - 母子感染によるものは0件
 - 年齢別では、30～50歳代が多い。

【検査・相談件数の概況】

1. 保健所等におけるHIV抗体検査件数は106,137件
（過去20年間で、15番目に多い件数）
2. 保健所等における相談件数は86,088件
（過去20年間で、17番目に多い件数）

《まとめ》

1. 令和5年の新規HIV感染者報告数については、令和4年より増加しており6年連続での減少から、増加に転じた。要因としては、新型コロナウイルス感染症の流行以降減少していた保健所等での検査件数が回復したことが影響している可能性がある点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
2. 令和5年の新規AIDS患者報告数の増加は、新型コロナウイルス感染症の流行以降、保健所等での検査件数が減少していたことが影響している可能性が否定できない点に留意し、今後の状況を注視していく必要がある。
3. 新規HIV感染者の感染経路は、性的接触によるものが約85%（うち約84%が同性間）、新規AIDS患者では約69%（うち約78%が同性間）となっている。また、新規HIV感染者・新規AIDS患者ともに、男性が全体の9割を超えている。

4. 献血時のH I V抗体・核酸増幅検査における 10 万件当たりの陽性件数は令和 4 年と比べて減少した。しかし、依然として陽性件数があることを踏まえると、H I V感染リスクがある方は、保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。
5. 新規報告数全体に占めるA I D S患者報告数の割合は、依然として約 3 割のまま推移している。A I D S発症防止のためには、H I V感染後の早期発見が重要である。H I V感染リスクがある方は、早期発見のため、積極的に保健所等での無料・匿名検査や医療機関による検査を受けていただきたい。また、保健所及び自治体におかれては、エイズ予防指針を踏まえ、利便性に配慮したH I V検査相談体制を推進していただきたい。
6. H I V感染症は予防可能な感染症であり、適切な予防策をとることが重要である。また、A I D S発症予防のためには、早期発見と早期治療が重要である。感染予防と早期発見は、社会における感染の拡大防止にもつながることから、首都圏を始め都市部、また都市部以外の地域においても、梅毒などの性感染症を含め、保健所等での無料・匿名の検査・相談や医療機関による検査を積極的にご利用いただきたい。